

# 平成30年住宅・土地統計調査 群馬県結果の概要（住宅数概数集計）

令和元年7月8日 統計課人口社会係

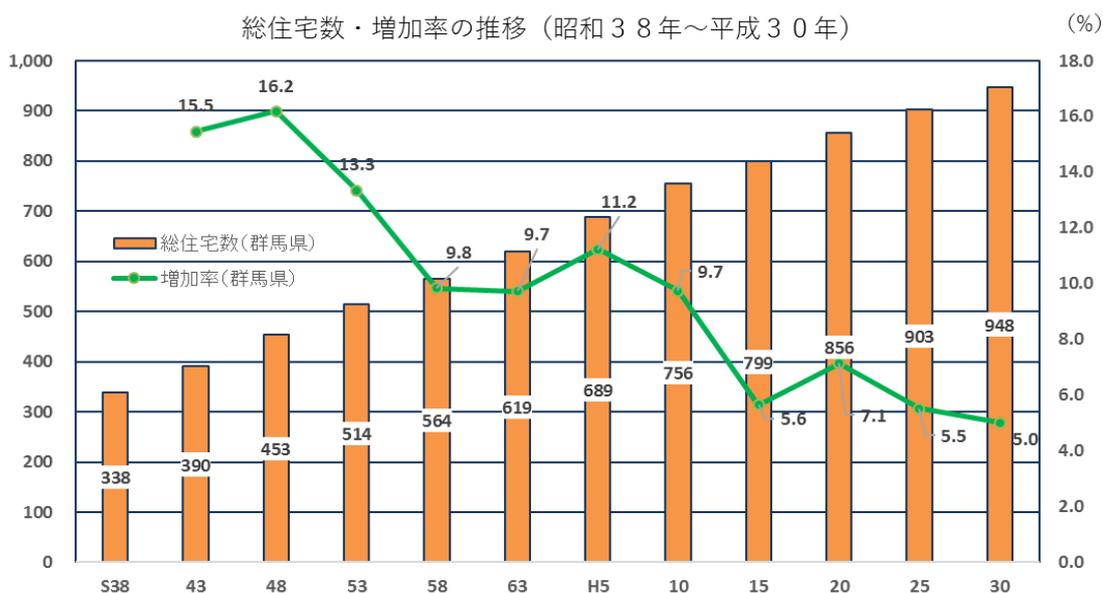
※ 「平成30年住宅・土地統計調査 住宅数概数集計」（平成31年4月26日 総務省統計局公表）から、本県に関する内容を抜粋して構成したものです。

※ 本集計は、概数集計結果によるものであり、平成30年の数値は後日公表される集計結果と異なる場合があります。

※ 平成25年以前の数値については、過去の確報集計結果に基づいています。

## 1 総住宅数と増加率

総住宅数は948,200戸で、平成25年（前回調査）と比べ、45,300戸、5.0%増加した。総住宅数は、長期にわたり増加し続けており、昭和63年から平成30年までの30年間で328,900戸、53.1%増加している。その一方で、増加率は縮小傾向にある。



## 2 空き家数と空き家率

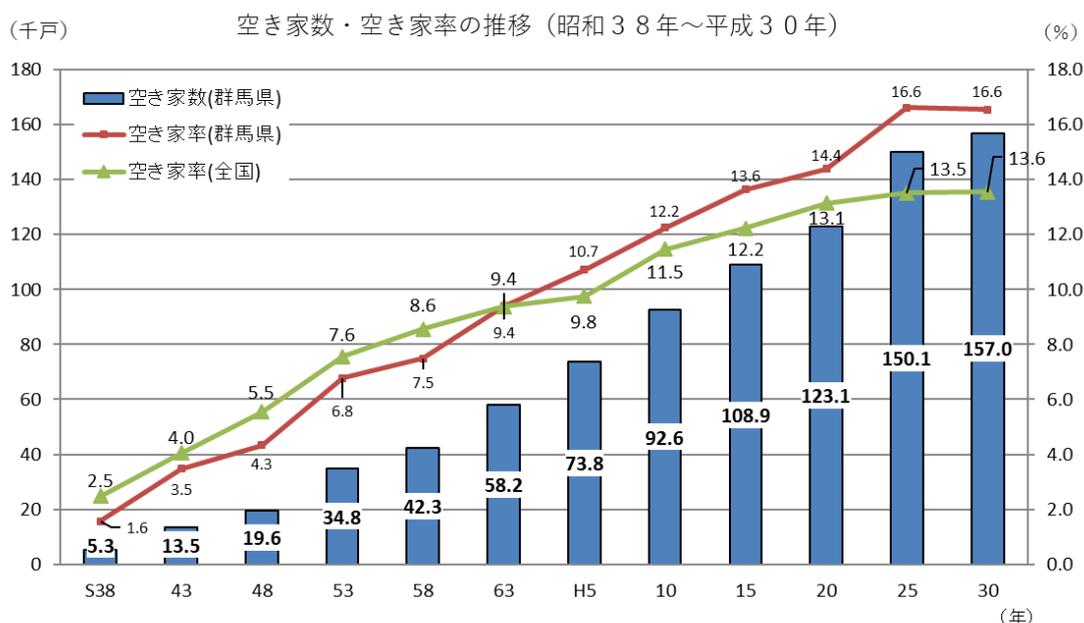
空き家数は157,000戸で、平成25年と比べ、6,900戸、4.6%増加し、空き家率（総住宅数に占める空き家の割合）は前回と同じ16.6%で上げ止まりとなった。全国の平成30年の空き家率は13.6%であり、空き家率の高い順で群馬県は12番目となった。

空き家の種類別の内訳をみると、「賃貸用の住宅」が最も多く76,200戸（前回比1,500戸増加）、「売却用の住宅」が3,900戸（同1,800戸増加）、別荘などの「二次的住宅<sup>\*1</sup>」が14,800戸（同2,100戸減少）、「その他の住宅<sup>\*2</sup>」が62,200戸（同5,800戸増加）となった。

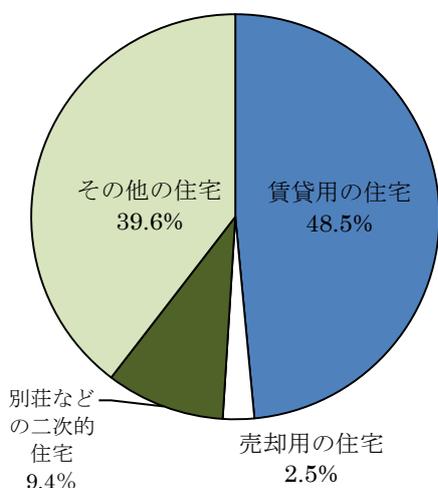
空き家の建て方別の内訳をみると、「一戸建」が74,300戸(47.3%)で、前回は200戸減少、「長屋建」が8,200戸(5.2%)で、1,700戸増加、「共同住宅」が74,000戸(47.1%)で、5,600戸増加した。

※1「二次的住宅」：保養などの目的で使用される住宅で、ふだん人が住んでいない住宅やふだん住んでいる住宅とは別に、たまに寝泊まりしている人がいる住宅

※2「その他の住宅」：人が住んでいない住宅で、転勤・入院などのため居住世帯が長期に渡り不在の住宅や建て替えなどのために取り壊すことになっている住宅(空き家の区分の判断が困難な住宅を含む)



平成30年 空き家の内訳(種類別)



空き家率の低い都道府県

都道府県名	空き家率
1 埼玉県	10.2%
1 沖縄県	10.2%
3 東京都	10.6%
4 神奈川県	10.7%
5 愛知県	11.2%
6 宮城県	11.9%
7 山形県	12.0%
8 千葉県	12.6%
9 福岡県	12.7%
10 京都府	12.8%
36 群馬県	16.6%

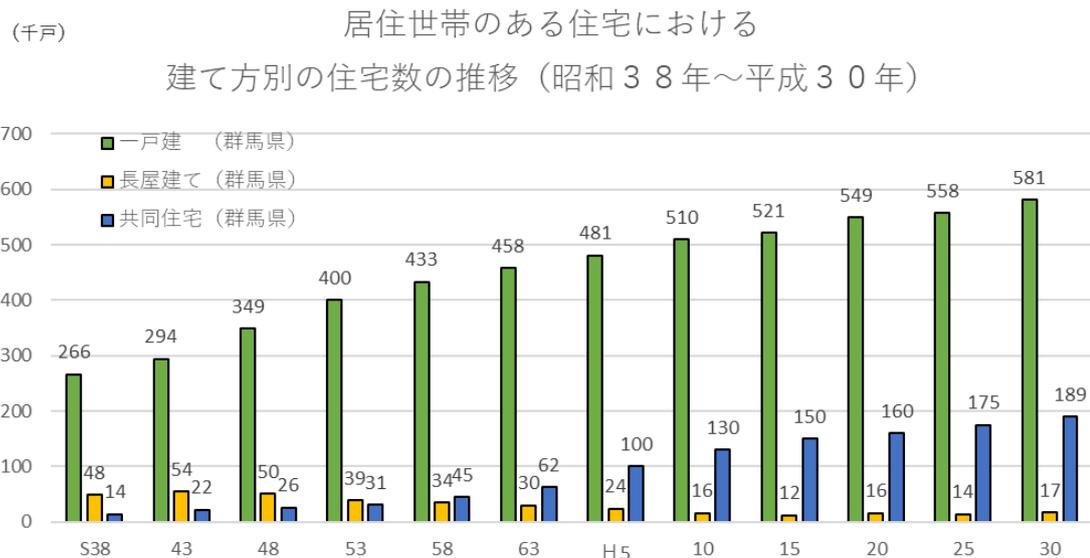
空き家率の高い都道府県

都道府県名	空き家率
1 山梨県	21.3%
2 和歌山県	20.3%
3 長野県	19.5%
4 徳島県	19.4%
5 高知県	18.9%
5 鹿児島県	18.9%
7 愛媛県	18.1%
8 香川県	18.0%
9 山口県	17.6%
10 栃木県	17.4%
12 群馬県	16.6%

### 3 建て方別の住宅数の推移

居住世帯のある住宅数は787,200戸で、建て方別の内訳をみると、一戸建が580,700戸(73.8%)、長屋建が16,600戸(2.1%)、共同住宅が188,900戸(24.0%)となった。

住宅に占める共同住宅の割合を都道府県別にみると、群馬県は24.0%で、全国で37番目(最も高いのは東京都の71.0%、次いで沖縄県の59.0%、大阪府の55.2%)で低い水準にあるが、戸数は昭和63年から平成30年までの30年間で3倍以上に増加している。



( 参考 )

